



2021 年 3 月 8 日
FCA ジャパン株式会社

女性レースドライバーに敬意を表する アルファロメオ



アルファロメオは国際女性デーに際し、モータースポーツの輝かしい歴史を彩った女性レースドライバーに敬意を表したい。彼女たちの偉業は単なるスポーツ価値を超越し、先入観や障壁を克服する前例を作った。ここで紹介する女性レーサーたちはそれぞれが違う時代に活躍し、出自も様々である。しかしながら彼女たちに共通しているのは、パイオニア精神とレースに対する情熱、そして、恐れることなく新境地を切り拓こうとするチャレンジ精神である。

アルファロメオブランドを成功へと導いた偉業の歴史を称え、現在から 20 世紀初頭に活躍した女性レースドライバーたちをご紹介します。

タチアナ・カルデロン(Tatiana Calderon)

コロンビアのボゴタで 1993 年に生まれたタチアナ・カルデロンは、2005 年に国内選手権のイージー・カート・プレジュニアシリーズで優勝したのを皮切りに、モータースポーツシーンで頭角を現していく。そのわずか 3 年後にはアメリカのスター・オブ・カート選手権東部ディビジョンで初の女性ドライバーとして優勝を飾っている。

2017 年にはザウバーF1 チームの開発ドライバーとなる。1 年後にザウバーは彼女を開発ドライバーからアルファロメオ・レーシングのテストドライバーへと昇格させ、カルデロンはラテンアメリカ出身の女性としては初めて F1 マシンをドライブした女性となった。

カルデロンはアルファロメオの現役女性ドライバーだが、一世紀以上前、第一次大戦後にも、マリア・アントニエッタ・ダヴァンツォがアルファロメオ初の女性レースドライバーとして活躍している。

タマラ・ヴィダリ(Tamara Vidali)

アルファロメオがレース界にカムバックすべく設立されたアルファ・コルセ部門は、タマラ・ヴィダリをスターダムに押し上げることに貢献した。1992 年のイタリア・ツーリングカー選手権グループ N で、彼女はアルファロメオ 33 1.7 クアドリフォリオ・ヴェルデを駆って年間チャンピオンに輝いている。

マリア・グラツィア・ロンバルディとアナ・カンビアギ(Maria Grazia Lombardi & Anna Cambiaghi)
1950 年代に F1 史上初の女性ドライバーとして歴史に名を残すマリア・テレザ・デ・フィリッピスの後を追ってマリア・グラツィア・“レラ”・ロンバルディは二人目のイタリア人女性ドライバーとして F1 に参戦し 13 のレースに出場した。1982 年から 1984 年の間、彼女はアナ・カンビアギやジャンカルロ・ナッデオ、ジョルジオ・フランチャ、リナルド・ドロヴァンディとともにヨーロッパ・ツーリングカー選手権にアルファロメオ GTV6 2.5 で参戦し、輝かしい戦績を残している。

クリスティン・ベッカーズとリアン・エンゲマン(Christine Beckers & Liane Engeman)

1960 年代はアルファロメオ・ジュリアスプリント GTA がモータースポーツシーンを席巻した。当時がアルファロメオの歴史を数々の勝利によって彩る貴重な時代であったことは良く知られている。しかしながら、あまりよく知られていないこともある。スーパーチャージャーを積んだアルファロメオ GTA-SA である。当時のグループ 5 向けに 10 台が製作された GTA-SA は、油圧駆動の遠心式コンプレッサーを採用し、220 馬力のパワーで時速 240 キロという性能を発揮。当時のレースマシンの中でも突出したパワーを誇ったが、当時アウトデルタでテストドライバーを務めていたデオドロ・ツェッコリは「何の前触れもなしに突然ブーストがかかってパワーがさく裂するので、コーナーなどでは扱いにくく予測のつかないマシンだった」と評している。このじゃじゃ馬を誰よりも上手に御したのは若いベルギー人のクリスティン・ベッカーズだった。1968 年にベルギーのウイエで開催されたレースで彼女は誰もがコントロールすることに苦しんだ GTA-SA を駆って優勝している。翌年もコンドロズ、エルブモン、ザントフォールトで入賞を果たしている。しかしながら GTA-SA を飼いならしたのはベッカーズだけではなかった。トアイン・ヘゼマンのチームからアルファロメオ 1300 ジュニアでオランダの国内選手権に参戦していたリアン・エンゲマンも GTA-SA と相性が良かった数少ないドライバーの一人である。ちなみに彼女は後年、アルファロメオのモデルも務めた。

スサーナ・“スージー”・ラガネッリ(Susanna “Susy” Raganelli)

四輪のレースで唯一世界チャンピオンになった女性ドライバーと言えばスサーナ・“スージー”・ラガネッリをおいて他にない。1966 年にスージーは 100cc カート世界選手権でリーフ・エングストロムやロニー・ピーターソンなどのなみいる強豪を抑えて年間チャンピオンに輝いた。ラガネッリの人生はアルファロメオとは切っても切れないものだった。レーサーとしてのキャリアの終盤に彼女はアルファロメオ GTA で数々のレースに出走した。また、わずか 12 台しか生産されなかった伝

説的な 1967 年式アルファロメオ 33 ストラダレを購入した一人でもあった。

アダ・パーチェ（ドライバーネーム、“サヨナラ”）(Ada Pace “Sayonara”)

1950 年代にはアルファロメオのステアリングを握って優れた成績を残した女性レーシングドライバーが存在した。トリノ生まれのアダ・パーチェである。約 10 年に及ぶ彼女のレーサーとしてのキャリアの中で、パーチェは国内選手権で 11 回の優勝を飾っている。そのうちの 6 回はツーリングカーで、残りの 5 回をスポーツカテゴリーで優勝している。レースに出場するときパーチェは必ず“サヨナラ”というレーサー名を使っていた。彼女はアルファロメオ・ジュリエッタ・スプリント・ヴェローチェとアルファロメオ・ジュリエッタ SZ をドライブしていた時代に頂点を極め、1958 年にはトリエステ・オピチーナ・ヒルクライムレースで優勝している。

オデット・シコ(Odette Siko)

1930 年代にアルファロメオはモータースポーツ界の主演に躍り出ていた。高いパフォーマンスを発揮したレースマシンがその立役者であったことは言うまでもないが、それ以上に伝説的なドライバーたちがモータースポーツにおけるアルファロメオの名声をさらに高めていった。当時、タツィオ・ヌヴォラーリやアキッレ・ヴァルツィ、ルドルフ・カラツィオラにレイモン・ソメールなど、錚々たるドライバーたちがしのぎを削っていた。中でもソメールは 1932 年のルマン 24 時間レースでアルファロメオ 8C 2300 を駆って優勝を果たしたが、同レースでアルファロメオ 6C 1750 SS のステアリングを握って 2 リッタークラス優勝、総合で 4 位に入賞したオデット・シコを忘れてはならない。若いパリジェンヌのシコは一躍レース界で脚光を浴びるようになり、レースでのパフォーマンスのみならずパドックでのエレガントな振る舞いも注目の的であった。当時、同じフランス人女性ドライバーであったエレ・ニースとともにスポットライトを浴びた二人の女性ドライバーは、いずれもアルファロメオと人生が交差していた。

エレ・ニース(Hellè Nice)

出生名はマリエッテ・ヘレーネ・デラングだったエレ・ニースは、レーシングドライバーであると同時にモデル、スタントウーマン、そしてダンサーでもあった。社交的な性格だった彼女は当時、ロートシルト家やブガッティ家とも交流があった。ニースは主にヨーロッパとアメリカのモータースポーツシーンで数々の戦績を残したが、車体にスポンサーのブランド名を掲示した初期のドライバーの一人でもある。1933 年にモンツァで開催されたイタリアン・グランプリには、彼女自身が所有するアルファロメオ 8C 2300 モンツァで参戦している。このレースはジュゼッペ・カンパーリ、バコーニン・ボルザッキーニ、スタニスラ・ツァイコウスキーがレース中に命を落とした悲劇的なレースとしても知られている。1936 年にはモンテカルロで開催されたレディース・カップに出走。同年にはサンパウロ・グランプリに出場し、大クラッシュを喫している。

アンナ・マリア・ペドゥツィ(Anna Maria Peduzzi)

アルファロメオの歴史はスクーデリア・フェラーリ抜きに語ることはできない。数々の「跳ね馬」ドライバーの中で、フランコ・コモッティ、通称「モロッカン（モロッコ人）」の妻でコモ生まれのアンナ・マリア・ペドゥツィは数少ない女性ドライバーだった。自身が所有していたアルファロメオ 6C 1500 スーパースポーツは、彼女がエンツォ・フェラーリから直接購入したものだったが、彼女はこれを駆って様々なレースに参戦した。1934 年のミッレミリアでは 1500 クラスで優勝を飾り、戦後にはアルファロメオ 1900 スプリントとアルファロメオ・ジュリエッタで数多くのレース

に出場した。

マリア・アントニエッタ・ダヴァンツォ (Maria Antonietta d'Avanzo)

第一次世界大戦が終戦を迎えてほどなくしてバロネス・マリア・アントニエッタ・ダヴァンツォがアルファロメオからモータースポーツ界へのデビューを果たした。パイロットでありジャーナリストでもあったダヴァンツォは、イタリアのモータースポーツ界で女性レーサーのパイオニアである。彼女は 1921 年にブレシアで開催されたレースでアルファロメオ G1 をドライブして 3 位入賞を果たしている。ダヴァンツォは当時のモータースポーツ界で輝かしい戦績を誇っていたエンツォ・フェラーリを含む男性レーサーたちの良きライバルであった。

ダヴァンツォはその後も様々なカテゴリのレースに参加し、その活躍は 1940 年代まで続いた。

アルファロメオ

110 年の歴史を誇るアルファロメオは、自動車の歴史において最もスタイリッシュでスポーティーな作品の数々を世に送り出している。その伝統と遺伝子は今日にも受け継がれ、自動車のデザインに次々とイノベーションを起こしている。アルファロメオ・ステルヴィオは SUV にスタイリングとテクノロジー、そしてパフォーマンスの新たな基準を打ち出した野心的な作品である。数々の賞を受賞したアルファロメオ・ジュリアはモータースポーツにインスパイアされたパフォーマンス、最新技術と爽快なドライビング体験をこのプレミアム・ミッドサイズセダンに凝縮している。ジュリア・クアドリフォリオとステルヴィオ・クアドリフォリオは歴代のアルファロメオの中でも最強のパワーユニットを搭載している。